

9. 伊達騒動（寛文事件）に関する図書資料

問 伊達騒動のことを書いた本には、どのようなものがありますか。

(1)

答 現在のところ、次のようなものがあります。

1. ノンフィクション資料

宮城県史第2巻

伊達騒動記（山路愛山）

伊達騒動実録（大槻文彦）

在田利見抄（鈴木春英、「仙台叢書」第4巻の内）

伊達氏実記伊達支傾録（日高誠実）

伊達安芸と寛文事件（浅倉寅雄）

先代萩の実相（田辺実明）

寛文事件の真相（佐藤 佐）

先代萩実話（斎藤莊次郎）

伊東七十郎（斎藤莊次郎）

伊達騒動（平 重道）

原田甲斐（林亮勝「日本人物史大系」第3巻の内）

伊達騒動と原田甲斐（小林清治）

伊達騒動・有馬猫騒動と村上刃傷事件―病跡学から見た―（王丸 勇）

伊達騒動（小林清治、「御家騒動」（北島正元編）の内）

英雄・天才秘話（王丸 勇）

英雄医談―病跡学こぼれ話―（王丸 勇）

お家騒動<その虚説と真実>（稲垣史生）

肯山公治家記録前編巻之7

2. フィクション資料

縦ノ木は残った（山本周五郎）

伊達騒動（海音寺潮五郎、「列藩騒動録」第1巻）

原田甲斐の最後(真山青果、「真山青果全集」第9巻の内、「真山青果全集〔新版〕」第3巻の内)

絵本千代萩

実録千代萩(京山吾一)

赤西蠣太(志賀直哉)

伊達巖秘録

伊達大評定(永島辰五郎)

実録千代萩物語(村井直治郎)

伊達競阿国戯場〔だてくらべおおくにかぶき〕(「歌舞伎名作選」第4巻)

注(1) 万治3年〔1660〕7月、第3代伊達綱宗、不行跡の理由で在職僅か3年にして隠居命ぜられた。綱宗の不行跡は奸臣がおとし入れたものだともいわれる。江戸吉原三浦屋の高尾を身請して吊し斬りにしたといわれるのも、事実無根である。また荒町仏眼寺の「高尾の墓」というのも、実は綱宗の妾相原品の墓である。僅か2才で父の跡を継いだのは亀千代〔綱村の幼名〕であり、その生母が俗に政岡と誤まり伝えられる三沢初子である。この幼君をめぐって「先代萩」あるいは「伊達騒動」と呼ばれる「寛文事件」が起きた。これらの称は芝居の題名や、後世の呼び名で、当時国許では「寛文一件」などといった。今までの定説によれば、事件は次のようなものであった。亀千代には、幕命により伊達兵部少輔宗勝と田村右京亮宗良の2人が後見役についた。宗勝は奉行原田甲斐と結んで悪政を行ったとして、寛文11年〔1671〕涌谷の邑主伊達安芸宗重が幕府に直訴した。同年3月大老酒井雅楽頭〔うたのかみ〕の邸で、安芸・甲斐らに対する裁判が行われた。休憩中、甲斐は安芸を斬殺したが、甲斐もその場で討たれた。この後、宗勝は土佐に流され、宗良は閉門、甲斐の実子らは処刑されるなどして事件は落着し、伊達家は事なきを得たというのである。しかしながら、この事件は、藩主幼少という異常事態に際し、藩内上層部の対立が露呈したもので、兵部の後見政治は特に「悪政」という程のものではなかったが、騒動の最高責任は免かれなかったのである。この事件後、綱村は強力な親政を開始し、職制の整備に努め、統治権力の確立をはかることになった。

資料 仙台市民図書館郷土資料目録

10. 仙台領の秤座

問 秤座〔はかりざ〕とはどのようなもので、仙台領の場合はどうだったのですか。